

事務事業名	薬草研究会活動支援事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	5231							
			所属課室	健康増進課		課長名	櫻田正文							
			所属担当	健康づくり担当		担当者名	塩澤秀子							
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目			
		18	健康づくりの推進		01	一般	0	4	0	1	0	1	0	2
政策		31	保健・医療の推進	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金									
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 昭和52 年度） ☐ 期間限定複数年度（ ～ 年度）				法令根拠									
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 薬草等采取研究し、研究内容を広く市民に啓発し、市民の健康増進に貢献することを目的に活動している白根薬草研究会の事業費を助成し、事務的補助を行う。			事業費の主な内訳（ 22年度 ）										
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)				
				事業費補助金		102								
								計		102				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	薬草採取・薬草茶作り・市内イベントでの薬草茶の効能等啓発、配布・研修会の開催
23年度活動予定	薬草採取・薬草茶作り・市内イベントでの薬草茶の効能等啓発、配布・研修会の開催
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
薬草研究会会員・市民	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
薬草を研究し、薬効などを広く市民に啓発し、市民は健康増進に役立てる。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
市民の健康増進	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 事業実施数	回
イ	
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 会員数	人
イ 人口	人
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア イベント参加数	回
イ 市民参加数	人
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 薬草を健康に役立てている市民の数	人
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	109	102	99	97			
	事業費計 (A)		千円	109	102	99	97	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1				
		延べ業務時間	時間	4	4	2	2				
		人件費計 (B)	千円	18	18	8	8	0	0	0	
		(A)+(B)		千円	127	120	107	105	0	0	0
活動指標		アイウ	回	15.0	15.0	15.0	15.0				
		アイウ	人	43.0	41.0	38.0	45.0				
		アイウ	人	72,669.0	73,014.0	72,854.0					
対象指標		アイウ	回	2.0	2.0	2.0	3.0				
		アイウ	人	2,000.0	1,000.0	2,000.0	2,500.0				
		アイウ									
成果指標		アイウ	人								
		アイ									
上位成果指標		アイ									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	旧白根町時代に発足した会であり、町民の健康増進に貢献できる団体であると認め、補助金を交付し、町民の健康のために活動してきた。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	会員の高齢化で新しい事業に取り組みない。会員が白根地区に偏っていてなかなか他地区に広がらない。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	会員の高齢化で新しい事業に取り組みない。会員が白根地区に偏っていてなかなか他地区に広がらない。イベントなどで配布するお茶の評判はよいが、会員の増加につながらない。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	会員の高齢化により、新しい事業に取り組みない。積極的に会員を増やす活動もしてない。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	

事務事業名	薬草研究会活動支援事業	所属部	保健福祉部	所属課	健康増進課
-------	-------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 一部の市民団体のための事業になっている。市民の健康増進につながっているか明確ではない。	
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 会員が、白根地区以外に広がらない。研究の成果が市民にどの程度広まり市民の健康増進に寄与しているか不明なので、公費を投入していく意味があるのか見直しの余地がある。	
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 事業の目的が成果として現れない。補助金交付は見直す必要がある。	
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 イベント等で薬草を配布するだけではなく、広く広報活動(PR活動)をし会員を増やす努力が必要。イベントも地元白根のものだけでなく、他地区にも積極的に出かけてく必要がある。	
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 活動内容を精査し、補助金の見直しをしていくべきである。	
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 自主的に活動しているので、職員が業務時間内に従事する事はほとんどない。	
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 市民に広く活動内容が理解され、薬草効果が啓発できるよう工夫が必要。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	活動が一部地域に偏り、広く市民に浸透していない。今後活動範囲を全市に広げられるような事業の見直しが必要。H22に補助金の要綱を改正したが、今後も見直しをしていく必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																					
		削減	維持	増加																			
成果水準	向上	☐	☐	☐																			
	維持	☐	☒																				
	低下	☐																					
(2) 改革改善案について																							
① ② ③																							
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																						
① ② ③	成果優先度評価結果	⑫																					
	コスト削減優先度評価結果	⑥																					